



原子力委員会委員長  
新計画策定会議議長  
近藤俊介様

## 緊急の要望

日本キリスト教協議会 (NCC)  
総幹事 山本俊正  
平和・核問題委員長 小笠原公子

去る11月1日、貴委員会の新計画策定会議は、現行の核燃料サイクル政策継続(第一シナリオ)の方針をほぼ決定とされました。今後の審議では核燃料サイクル実施に向けて具体的な準備作業に移行されるということです。

貴委員会は今次の策定作業を始めるに当たり、幅広い国民の意見を聴取し、また特定分野の参考人に意見を求めて、これらを審議に反映させる旨を明言されました。しかし委員会は政府の政策決定に必要なパブリック・コメントの募集も行わず、市民団体および個人から寄せられた多くの意見・要望も会議の委員に送っただけで済ませています。民主性、公平性、透明性が重視されないところで重要な原子力政策の基本方針が決められることは、遺憾なことです。

私たちは第12回策定会議を明日に控えておられる貴委員会に、緊急に以下のことを要望いたします。

1、民主的で公平、透明な審議を行なってください。とくに、重要な決定の後ではなく前にパブリック・コメントを募集し、市民の意見について十分論議して、決定に反映してください。国民の多く、とりわけ原発の周辺地域住民は、度重なる事故隠しとデータ隠しに不信と不安を募らせています。住民の声を真摯に聴いてください。

2、六ヶ所再処理工場のウラン試験を急がせるような形にしないでください。「もんじゅ」は10年前の事故から未だに移動の見込みも立たず、プルサーマル計画も進展しない状態で、すでに抽出された大量のプルトニウムも貯まったままです。巨費をかけて危険を冒し、プルトニウム抽出を急ぐ必要はまったくありません。再処理試験は凍結して、海外の再処理工場の経営破綻と放射能被害にも学びながら、核燃料サイクル政策を徹底的に見直す方針を立ててください。

3、既存原発の問題を直視してください。先般の美浜原発3号機事故に見られるように、原発の老朽化、コスト削減による点検短縮と技術者不足、労働環境の悪化に伴い、いまや事故の多発と苛酷化は避けられない状態です。このことは誰よりも被曝労働者と地域住民がよく知っています。エネルギー・セキュリティよりもヒューマン・セキュリティを真剣に考えてください。

4、放射能廃棄物の後始末の問題に、集中的に取り組んでください。この問題は、根拠が曖昧な試算によっでは解決できるとは思えません。たとえ事故がなくても、放射能廃棄物はますます積もります。これを六ヶ所村や原発の地域住民に押し付けるのではなく、公平、公正な処分の仕方を都市・地域双方の住民と共に考える手立てを講じてください。

5、本来人間の処理能力を超える放射能廃棄物をこれ以上出さないように、「脱原発」を目指すことをすべての審議の前提にしてください。省エネルギー、自然エネルギーを大切にする自然と調和した生活、有限な資源を互いに分かち合う平和な暮らしは、富んで心がすさむよりもはるかに高価な生活です。このような要素も、試算等の策定作業の中に加えていただくことを願っています。

以上